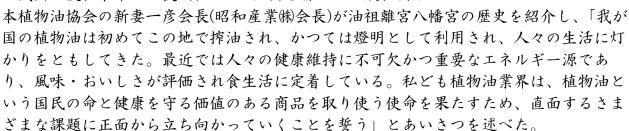
日使頭祭

令和6年4月6日(土)

京都·大山崎の油祖離宮八幡宮において恒例の日使頭祭(ひのとさい)が行われた。桜満開の好天に恵まれ、メーカー、販売業者、関係団体の代表者ら油脂業界から約90名が出席。また総代会、地元関係者も多数出席し、油脂業界のさらなる繁栄や参拝者の無病息災を祈願した。

午前11時開式、献燈や湯立、祝詞奏上、玉串奉奠などの伝統 神事が行われた。式神楽、湯立の神事は5年ぶりとなった。

式典の後、本年の日使頭(ひのかしら)を務めた一般社団法人日



この後は、社務所内に場所を移し『直会』を5年ぶりに行った。はじめに崇敬会 木村治愛副会長(㈱マルキチ会長)が「油屋にとって、離宮八幡宮は歴史と文化の誇りである」とあいさつを述べ、引き続き昭和産業㈱駒井孝哉常務執行役員大阪支店長が「コロナ、原料高、円安とここ数年油脂業界は非常に苦しんでいる。環境変化に即した業界にしなければならないと思う」とあいさつを述べた。その後、全油販連 館野洋一郎会長(㈱タテノコーポレーション社長)の乾杯の音頭で懇談に入り、関西油脂連合会 木村顕治会長(㈱マルキチ社長)による油メで散会した。境内では、模擬店や搾油のデモンストレーション、和太鼓演奏や地元の音楽祭が催され、コロナ前の賑わいが戻った。



(写真提供 油脂特報社)